資料-5

霞堤地区地元説明会の開催報告

牛川地区第10回地元説明会

日時：令和6年7月25日（木） 19:00～20:30

場所：豊城生涯学習センター

参加者：住民13名

（主なご意見）

- 暫定堤という言葉が初めて出てきたが、小堤との使い分けについて教えていただきたい。小堤よりも低い高さの堤防を指しているのか、規模や断面が小さい堤防を指しているのか。

⇒基本的には小堤と暫定堤は同じものである（同じ機能を有している）。河川整備計画上、牛川地区は築堤ということになっており、最終的には完成堤になる。ただ設楽ダムが完成するまでは、小堤と同じ規模の堤防をまず作ることになっている。（国）

- 沖野地区にお年寄りや足腰が弱い方など災害弱者の方がおられるが、そういった方に避難情報等の連絡が上手く伝わる良い方法はないか。

⇒１軒１軒避難を呼びかけることは難しい。回転灯を回す仕組みや、市のほっとメールを配信するなど、住民に避難を促す取組を行っている。ただ課題として、そのほっとメールに入ることができない、見ることができない方に情報は届かないので他の手段を検討する必要があると感じている。（豊橋市）

- 暫定堤が整備されたとしても、暫定堤からの越流よりも先に本川の逆流が始まっていると思われる。樋管ゲートを閉めたとしても、今度は内水の排水ができなくなる。内水の排水をどうやっていくのか。

⇒豊橋市や愛知県から頂いたデータを基にシミュレーションをまず行い、対策を今後検討したい。（国）

- 暫定堤の整備はいつから取り掛かるのか。着工から完成までどのくらいかかるのか。

⇒着工時期は現時点で明確な回答はできないが、設楽ダム試験湛水の2年前、令和14年の完成を目指している。10年程度はかかる予定である。（国）

- この説明会がお年寄り、要配慮者や豊橋創造短期大学の学生や職員、霞堤内地に土地を持っている方・住んでいる方などにも周知されて、地元の声が吸い上げられるような説明会であってほしい。

⇒地元の方の生の声を聞いて、それを吸い上げ今後の予算確保に活かしていきたい。できるだけ早く予算確保をして早く整備を進めていきたい。（国）

霞堤地区地元説明会の開催報告

下条地区第10回地元説明会

日時：令和6年7月29日（月） 19:00～20:30

場所：暮川集会所

参加者：住民29名

（主なご意見）

- 小堤完成後には水がこなくなるのか。そもそもなぜ小堤なのか。なぜ霞堤の機能を残さなければならなかったのか。

⇒小堤については、平成23年度洪水が再来しても小堤完成後に外水氾濫をしない高さで設計をしている。これより大きい昭和44年度洪水が来た場合は、小堤を乗り越えてしまうが、小堤により現況と比べ浸水範囲は大きく減ると考えている。現在の河川整備計画は令和16年までの計画であるため、次期整備計画の見直しなどを今後検討していく予定である。（国）

- 内水氾濫は避けられないのであれば、排水ポンプの設置は考えないのか？

⇒国交省に内水氾濫がどのように霞堤に影響するかというシミュレーションをしてもらっている。その結果を踏まえ、必要な対策を検討し、地元と議論していくことが必要と考えている。（豊橋市）

- 4つの霞堤で小堤を作る順番が最後になった地区は、それまで分散していた水が全部一か所に回ってくる。各地区で進めるに当たり、順番の決め方やリスクについてはどのように考えているのか。

⇒詳細な検討は今後であるが、そうならないよう、できるだけ4地区同時に完成を目指している。（国）

- 昨年の洪水の際、河川ライブカメラで水位を見つつなんとか間に合って自宅に帰ることが出来た。県道・市道等の通行止めのリアルタイム状況もウェブで見られると助かるが、対応可能なのか。

⇒日本道路交通情報センター（JARTIC）であれば、国道や県道の情報が公開されるが、市道までの情報は出ていない。県道が通行止めになると市道も通行止めになると理解いただきたい。（豊橋市）

- 今回初めて説明会に参加したが、今まで全く知らなかった。どのようにアナウンスされているのか。

⇒今回案内文を国が作成し、市の方で自治会の組回覧で回覧してもらった。今後について、組回覧がいいのか、もう少し早めに全校区配布をした方がいいのか、自治会を通じた配布がいいのかなどを国とも議論したい。（豊橋市）

霞堤地区地元説明会の開催報告

賀茂地区第10回地元説明会

日時：令和6年8月6日（火） 19:00～20:30

場所：賀茂校区市民館

参加者：住民19名

（主なご意見）

- CCTVカメラの位置が去年橋の上に付けられたカメラと同じ位置（方向）でほとんど変わっておらず、水が越えているのが分かるような（観て危機感を感じるような）、分かりやすい画像にしてはどうか。

⇒今後、検討する。（国）

- 築堤・小堤の実施時期を教えて欲しい。設楽ダムが出来ないと小堤が出来ないという説明が以前からあるが、その理由を教えてほしい。

⇒明確な時期は申し上げられないが、令和14年完成を目指して整備を行っていく予定である。昭和44年.8月洪水において、設楽ダムの完成前に小堤を整備した場合、9.6～25.2kの広範囲でHWLを超過する、といシミュレーション結果に基づくものである。（国）

- この地区は内水氾濫の影響が大きく、樋門を作っても水が逃げる場所が無い。昨年のような雨が降った場合にこの霞堤地区ではどのくらい水位が上がるのか、というシミュレーションは行っているか。

⇒今後、実施を検討する。（国）

- 排水ポンプの設置は検討されているのか。

⇒豊川市・豊橋市・国交省と調整の上、検討していきたい。また、シミュレーション結果に基づいて必要な対策についても、地元住民と議論しながら進めていきたい。（豊橋市）

- 施工中の賀茂樋管について、昨年のような集中豪雨があった際、仮設道路によって霞堤地区に水が入ってくる可能性は低くなったということか。仮設道路は残していく方針か。

⇒仮設道路や締め切りは残していく方向で考えている。浸水頻度についても、これまでの無堤区間と比べ少なくなる。（国）

霞堤地区地元説明会の開催報告

三上地区第10回地元説明会

日時：令和6年8月8日（木） 19:00～20:00

場所：三上地区市民館

参加者：住民31名

（主なご意見）

- 回転灯と道路管理者の通行規制について、どちらが先に行われるのか。関係性を教えてほしい。

⇒道路管理者は石田観測所の水位と、間川下流の水位をみて危険な状況になる前にあらかじめ巡視を開始する。その後、現地の浸水が始まったら通行止めの準備を行う。黄色ランプではまだ巡視の段階で現地状況を確認しており、赤ランプ点灯で現地の状況を見ながら通行止めを行う。（愛知県）

- 冠水する道路は主に豊橋市や新城市などを行き来する道になっている。道路自体を冠水しないような高さまでかさ上げするという対策は、将来的に考えているか。

⇒道路が冠水しないような高さまでの整備は現時点では予定していない。（愛知県）

- 現在工事中の賀茂樋管工事について、堤防高は何メートルであるのか。工事中に水が堤防を越えた場合、耕作者にどのように対策をするのか。

⇒工事用道路高は場所によって異なる。計画堤防高より1～2m程度低い高さで作られており、万が一浸水し堤内地に水が溜まった場合、1番低い場所から少し削って水を逃がす予定である。（国）

- 堤内地に水が溜まり、農地の作物がダメになった場合、補償はしてもらえるのか。

⇒被災者支援制度については、「給付」・「貸付」・「現物支給」のそれぞれで様々な支援制度がある。しかし、主に身体や住居、家財に関する制度であり、農作物については現時点では制度が無い。今後市や国で話し合っていき、検討はしていきたいと考えている。（国）

- 小堤により、北側の賀茂（豊橋市）の方は浸水範囲が減るが、南側の三上地区（豊川市）のみが浸水しているように見える。小堤の整備は、三上の耕作者・地域の人にとって、意味があるのか。

⇒小堤により、平成23年洪水より小さい洪水は防ぐことができ、それより大きな洪水（昭和44年洪水など）が来た場合は少し浸水はしてしまうが、これまでに比べ浸水範囲や浸水被害は軽減される。（国）

- 堤内地に溜まった水をどう処理するのか。小堤整備後、いつまでにどこまで整備や対策を行うのか。

⇒豊川の水位が下がった際に樋管を通して豊川に戻すため、排水ポンプの設置等は予定していない。樋管により豊川への排水を効率的に行うことができ、湛水時間はこれまでより減ると思われる。（国）

霞堤地区地元説明会の開催報告

金沢地区第10回地元説明会

日時：令和6年12月14日（土） 13:30～15:30

場所：金沢構造改善センター

参加者：住民43名

（主なご意見）

- 小堤ではなく本堤はいつできるのか。過去に設楽ダム群が完成するまで本堤はできない、という話であった。

⇒現行の河川整備計画は小堤整備のみ位置付けられているため、本堤については次期河川整備計画の中で検討していく予定である。（国）

- 2年前から農業を始めたがその年に被害に遭い、被害額は2000万円を超えている。このままでは家業が潰れてしまう。この土地を守って、この土地で暮らしていきたい人の気持ちにもっと寄り添ってほしい。次期整備計画で検討しますや勉強会などではなく、やるか・やらないのか、早急に何かしらの回答を出してほしい。

⇒皆様の意見を踏まえ、積極的な予算要求活動を行い、予算確保に努めていく。予算が確保でき次第、工事ができるよう、準備を進めている状況である。（国）

- 祖父川樋管の工事発注はいつ行うのか。

⇒予算要求はしているが、いつ発注できるかは現時点では答えられない。（国）

- 設楽ダムの工事の延期も住民にはなにも説明なく決まって進められているので、せめて追加の見直し（危険水位の設定の要領、情報発令の遅れ等）をしてほしい。

⇒霞堤地区においてリードタイム（水位上昇速度及び避難等に要する時間）を考慮し、危険水位を設定した場合、どの程度の水位になるか検証していく予定である。（国）

- 補償支援や計画の見直しなどは浸水被害軽減対策計画にしっかり明文化してほしい。

⇒農作物被害等に対する補償支援制度、相談窓口の確認をおこなった。今後は、市、県、国で勉強会を開催し、問題点などを共有するとともにどのようなことが可能か話し合いをおこなう予定である。（国）